

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
FMD News Vol.59をお届けいたします。

facebook



FMD
OWNER'S CLUB



9月のTOPICS

■ 血管内皮機能に対する経皮的冠動脈インターベンション(PCI)の影響



～中国人民解放軍総医院からの報告～

ユネクスEFシリーズは世界で唯一のFMD専用検査装置として、日本以外でも欧米やアジア各国で使用されております。海外の先生方からも弊社の装置を使用した論文が発表されていますが、今回は中国北京市にある中国人民解放軍総医院から発表された論文をご紹介します。

経皮的冠動脈インターベンション (PCI) は、狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患の治療に最も一般的に用いられる治療法です。しかしながらPCI後に血管内皮が障害されるとの報告もあり、一部の研究では、内皮障害とPCIとの関連が報告されていますが、そのほとんどは血液マーカー値の変化のみに焦点が当てられています。

血流依存性血管拡張反応(FMD)は、血管内皮機能障害を評価する最も一般的な検査で、PCI後のステント再狭窄と同様に、冠動脈疾患およびその危険因子と関連しています。そこで本研究では、PCIおよび冠動脈造影後の血管内皮機能を調査し、FMD低下の影響因子を明らかにすることを目的としました。

冠動脈造影を施行した25名(58±11歳)とステントPCIを施行した50名の計75名を対象に、術前及び術後24時間にFMD、そして血液マーカーとしてhs-CRP、vWF、IL-6を測定しました。

また、PCIを施行した50名は、ステントの全長が短い群(24.9±7.9mm)25名(57±8歳)と長い群(67.1±24.7mm)25名(60±8歳)に分けて検討しました。

その結果、全ての被験者を対象に冠動脈病変の重症度と範囲を示すGensini scoreとFMDは密接に相関していました($r = -0.735, P < 0.01$)。そして、FMDは冠動脈造影前後では $9.1 \pm 2.0\%$ から $8.3 \pm 2.5\%$ と有意な変化は見られませんでした($P=0.081$)。しかし、PCI後では短ステント群で $8.1 \pm 2.5\%$ から $6.5 \pm 2.2\%$ 、長ステント群で $6.8 \pm 2.1\%$ から $3.6 \pm 1.8\%$ へとそれぞれ有意に低下していました($P < 0.01$)。

さらに、PCI後のvWFの増加は、長ステント群と短ステント群の両方で観察され、FMD低下とvWF増加の間に有意な正の相関が認められました($P=0.020$)。重回帰分析では、FMDの低下がステントの長さ($P=0.001$)および総拡張圧($P=0.036$)と有意に相関することが示されました。hs-CRPとIL-6は共にPCI前後で有意な変化は認められませんでした。

したがって本研究におけるFMDの顕著な低下とvWFレベルの比例的増加は、PCIが血管内皮機能障害を誘発することを示唆しています。そしてPCIによる内皮機能障害の程度は、ステントの長さおよび総拡張圧と相関していました。

出典：Journal of Geriatric Cardiology (2016) 13: E1-E8

■ 第84回日本循環器学会学術集会にてWeb展示会が開催中です

第84回日本循環器学会学術集会Web展示会が10月30日正午まで開催中です。弊社はCOVID-19と血管内皮機能に関する動画を中心に展示公開しています。是非Web展示会へのご来臨をお待ち申し上げます。

動画はこちらからもご視聴いただけます ⇒ <https://unex.co.jp/covid.html?id=01>